小野谷機工の新商品

ダイナマックス「TBm-250」「Ks-8ST」「Ks-8AR」３種類登場

タイヤ足回り整備機器大手の小野谷機工は、2月から超扁平ワイドシングルタイヤも測定可能な新型トラック・バス用ホイールバランサー「ダイナマックス　TBm－250」、合わせて中級モデルの乗用車用ホイールバランサー「ダイナマックス　Ks－8ST」、「ダイナマックス　Ks－8AR」を販売開始した。創業50周年を迎え、さらに充実したラインナップの一端について、前回と同様に紹介したい。（木本）

新商品「ダイナマックスＴＢｍ－250」と開発者の杉本さん

新商品「ダイナマックスTBm－250」について、同社商品部技術開発グループの杉本和則部長代理に解説していただいた。

『この新商品は、乗用車用、ライトトラック用、トラック・バス用が1台で測定できるよう開発したホイールバランサーです。さらに最近増加している超扁平ワイドシングルタイヤも測定できるヘビー級のホイールバランサーです。適用リム径は10～30インチ、リム幅が2～20インチ、測定重量は250キロまで対応可能です。超扁平の大型タイヤにも対応できるよう、剛性を上げて新たなメカ構造を採用しております。また、回転数を遅くすることにより、短時間測定で作業スピードの向上を図りました』とのことだ。

早速、作業に移っていただいた。「TBm－250」は、荷重が大きいタイヤを測定するため、リフトは標準装備になっている。

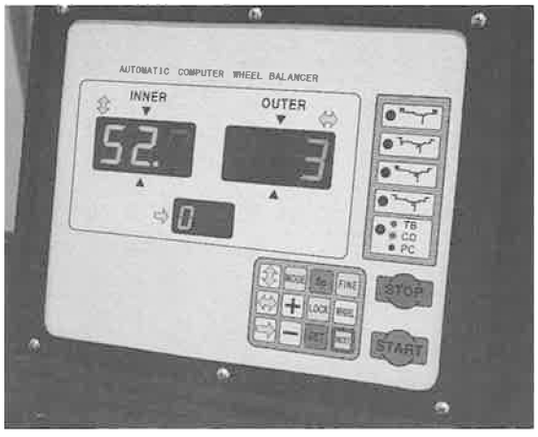
超扁平も測定（TBm－250）

超扁平ワイドシングルタイヤの測定では、専用のアルミフランジを装着し、固定する。続いてスケールでリム径・ディスタンスのデータを自動入力（打ち込み式のスチールホイールの場合はホイール幅は手入力）する。

タイヤガードを下ろして測定開始。大きな作りで約90rpmの低速回転のため泥はねもなく、安心感のある作業が行える。たちまち測定終了。同時にLED点灯装置（LUCE）が明るく点灯し、ウエイト貼り付け作業もさらに快適になった。同社のトラック・バス用ホイールバランサーでLEDが装備されたのは初めてとのこと。

ライトトラック用、乗用車用の測定では、オプションでLTコーン、PCセットを使用する。

『幅広いレンジのバランス測定が行えるので、新たに導入される方にも2台目として活用される方にも最適な商品です』と杉本さんは語る。



最大250kg、超扁平ワイドシングルも測定

ミドルクラスで高機能（Ks－8ST、8AR）

続いて、乗用車用ホイールバランサーの新商品「ダイナマックスKs－8ST」、「同8AR」の見学に移る。

『この2商品はダイナマックスKs－MAXに次ぐ、ミドルクラスの商品となります。基本性能をしっかり押さえたハイグレードモデルで、8STがワンタッチクイックナット方式、8ARがエアーロック方式です。電源仕様でも3相200Vと単相100Vに対応しています』

新商品「ダイナマックスＫｓ－８ＳＴ」

オプションのタイヤリフトは「L－1000C」、「L－1200」の2種。このタイヤリフトも軽労化に大いに貢献している。杉本さんによれば、最近は軽労化にこだわるお客様が増え、リフトのニーズも上がっており、注文が増加しているとのことだ。

ディスプレイは大きくて視認性もよく、操作しやすい。両モデルともLED照明装置（LUCE）、WAS機能（隠しウエイト）を標準装備している。もちろんマッチング機能、位相ロックや再演算、自己診断機能も標準装備だ。

モード切替スイッチでアルミ貼り付けを選択後、スケールをイン側、アウト側の修正箇所に当てるとリム径、リム幅、ディスタンスの3点が自動入力されるアルミオートシステムを採用。タイヤガード（標準装備）を下した後にスタートボタンで測定を開始すると約110rpmの低速回転で短時間測定を行う。低速で安全性も向上。

測定終了後、イン側の修正位置で自動的に止まるオートポジションサーチシステム。修正位置は真上の位置になる。LED照明装置が明るく照らし出すので作業も容易。ウエイト貼り付け後にNEXTボタンを押すと今度はアウト側の修正位置で自動的に止まるので、作業も簡単だ。

視認性の良いパネル

さらに「8AR」には両面打ち込みモードを使った際にリム幅のデータ入力を自動で行うアウトサイドゲージを搭載した。

その他のオプションとしてはLEDライン装置、ウエイトヒーター、コーンセット、各種アダプターセット、MC用アップグレードセットを用意した。

3商品ともに使い勝手の良い仕上がりとなっており、安全・確実な作業に貢献する、魅力十分のモデルだといえる。問い合わせは同社本社（0778－22－2124）または各営業所まで。

QRコード